

平成22年 教育委員会第10回定例会 秘密会 会議録

日 時 平成22年6月11日（金） 午後5時02分～午後5時48分
場 所 教育委員会室

議事日程

第 2 報告

【子ども総務課】

（3）組織目標 【政策形成過程終了につき、公開】

【指導課】

（2）事故報告 【個人情報につき、非公開】

出席委員 （4名）

教育委員長	市川 正
教育委員長職務代理者	古川 紀子
教育委員	中川 典子
教育長	山崎 芳明

欠席委員 （1名）

教育委員	福澤 武
------	------

出席職員 （9名）

子ども・教育部長	立川 資久
次世代育成担当部長	保科 彰吾
参事（子ども健康担当）	清古 愛弓
子ども総務課長	坂田 融朗
子ども施設課長	佐藤 尚久
子ども支援課長	眞家 文夫
児童・家庭支援センター所長	峯岸 邦夫
学務課長	門口 昌史
指導課長	坂 光司

書記 （1名）

子ども総務課総務係 係員	成畑 晴代
--------------	-------

市川委員長

それでは、再開をいたします。

ただいまから平成22年教育委員会第10回定例会の秘密会を開会いたします。

◎日程第2 報告

子ども総務課

(3) 組織目標

指導課

(2) 事故報告 【個人情報につき、非公開】

市川委員長

それでは、順序に従って説明をお願いしたいと思います。

初めに、子ども・教育部長から、組織目標ですか。お願いします。

子ども・教育部長

お手元のA3判の資料に基づきまして、組織目標について説明させていただきます。

この組織目標は、各部が年度当初に、このシートに基づきまして区長と調整を行い作成するもので、確定後は、ホームページを通じて広く区民に公表するものでございます。

政策経営部では、この一斉公表を来週行う予定にしているということでございますので、それまでは意思形成過程ということでございます。

この目標管理シートの年度当初の区長との調整の場は、庁内ではスプリングレビューと呼ばれている会議でございまして、その質疑概要につきましては、A4判の資料をつけさせていただいております。

それでは、内容について説明させていただきますが、この目標管理シートに掲載しております部の組織目標ですとか各事項は、昨年冬ごろ、教育委員会でご報告させていただきました予算の編成方針と全く同一内容となっております。ただ、つけ加えたものがございまして、資料の3ページ目の、一番左の番号で言いますと、13番から17番につきましては、予算編成方針にはなかったもので、この目標管理シートで新しくつけ加えさせていただいているものでございます。

それでは、まず事項の1番ですが、千代田子育てサポートですが、これは港区にございますNPO法人に委託をいたしまして、地域の育児力を向上させるという観点から、支援者——家族や子育てを支援する支援者の養成講座を考えているものでございます。

これにつきましては、もう一つの別紙、スプリングレビュー概要のほうをごらんいただきたいのですが、区長より、せっかく資格が付与されても、それが有効なサポート活動につながっていないのではないか。また、この講座講習会を保育ママ制度に使えないのかというようなお尋ねがございました。

1点目のお尋ねにつきましては、支援者は千代田区では約50名弱に及んでおりますけれども、活動時間もかなり多く、実際には不足している状態で、港区のほうで養成された支援者にもご協力をいただいている状況にございます。

2点目の保育ママ制度については、この講座講習会では少し不足する部分がございますので、今後、その不足を補てんするような講座を行うことで、活用していきたいと考えております。

次に、またシートに戻りまして、2点目の保育園待機児童対策ですが、これは先ほど中川委員からお尋ねがございました、9年ぶりに待機児童が発生しました関係で、旧今川中学校にこの6月1日開所いたしました緊急保育施設になりますけども、今後も——真ん中のあたり、22年度の取り組みの欄をごらんいただきたいのですが、早期に開園可能な民間の認可・認可外保育施設の誘致を行ってまいりたいと考えています。

これにつきましては、スプリングレビュー概要のほうをごらんいただきたいのですが、長年居住している区民の優先入所についてどう整理したのかということで、区民の皆様方からも、この千代田区はかなり保育サービスが充実している関係で、その保育サービスを目指して転入して来ていただく方が多く——我々は「社会的転入」と呼んでおりますが——いらっしやいまして、そういった最近区民になった方々と、長年千代田区にお住まいの方々の間で、一定程度、長年区民であった方々を優先させるような仕組みをつくれないのかというふうなことがございまして、なかなか法制度上は難しいのですが、加算調整指数という、実際にあなたの世帯は何点ですという計算をする仕組みがございまして、そこで6カ月以上待機している方々についてはプラス1の加算を行うことで対応していきたいというふうに考えておりまして、もう既にその加算は行っているところでございます。

次に、各保育制度の年齢別コストを算出できないかということで、今日、申しわけございません、ちょっと資料を、うっかりつけるのを忘れてしまったのですが、0歳児で年間約400万円のコストが、区の認可保育所ではかかっているということでございます。

次に、保育需要の出現率をどう考えて、今後の保育施設をどう展開していくのかというお尋ねでしたけれども、先ほど申し上げたように、社会的転入がかなり多くて、例年ですと、50名ぐらいずつ、0～5歳児のお子さんの合計が増えていたんですが、それが去年は150名、今年もかなりの勢いで増えているということで、予測を超える増加傾向がございまして、なかなか予測しにくいという状況でございます。

ただ、このまま増加が続くとは考えにくいこともございまして、その辺を注視しながら、暫定的な保育の供給に努めてまいりたいと考えております。

またシートに戻りますが、3番の学童クラブ待機児ゼロ対策ですけれども、これにつきましては、今現在、何とか待機児ゼロを継続しておりますが、大規模学童クラブの施設規模の適正化ですとか、また、スポット学童保育を続けていくという取り組みで何とか今後もゼロを継続していきたいと考えています。

これにつきましては、スプリングレビューでは、区長より、午後7時まで学童クラブを延長で行っておりますが、それ以降の時間帯はどうするのかというお尋ねでございましたけれども、今後、すべての児童館ではございませんが、一部学童クラブでは、暫定的な試行として、午後7時以降も、来年度に向けて取り組んでまいりたいと考えています。

次に、4点目のシートの発達支援・特別支援教育の推進、これは前回の教育委員会の懇談会で詳しくご報告をさせていただきましたので、省略させていただきます。

次に、5番のきめ細かな学習指導体制の推進ですが、これは全小学校において教科担任制の導入、また、在来中学校では、少人数指導の実施などを行い、都基準より手厚い教員の配置を行っておりますが、これにつきましては、区長より、それだけ手厚い配置をしているのであれば、なかなか保護者の方々はそれをご理解していらっしゃるのでは十分周知すべきであるという指摘をいただきまして、もうお手元にもお届けかと思いますが、5月号の教育広報「かけはし」で、1ページを割きまして、周知を図らせていただいたところでございます。

次に、6番の新しい学習指導要領への対応です。これは全小学校への理科支援員の派遣や英語活動コーディネーター派遣などを通じまして、小学校は来年度、中学校は再来年度本格実施の新学習指導要領での対応を図っております。これについては、特に区長からお尋ねはございませんでした。

7番、健康・体力向上・食育の推進、また8番、自然体験・社会体験の充実と心の教育の推進につきましては、資料記載のとおり進めさせていただきます。

9番の保育園舎の整備でございますが、麴町保育園、神田保育園で現在新園舎整備を継続して取り組んでおりますが、今後も継続して取り組んでまいります。これにつきましては、区長より、麴町保育園につきましては、区では民営化を進めようとしているんですが、その件につきまして、周辺の住民とどのような状況なのか、また、保護者とはどうなのかということで、6月をめどとして保護者協議を再開し、周辺地権者へ説明を行ってまいりたいと考えております。

次に、10番、富士見みらい館の運営、また11番、麴町中学校、九段中学校の整備も、継続して取り組んでまいりたいと考えております。

12番、既存施設の維持管理及び温暖化対策、また、そのあとにあります各施策につきましても、資料に掲載のとおり、継続して取り組んでまいりたいと考えております。これにつきましては、特に区長からご指摘はいただいております。

以上が、部の目標管理でございます。

市川委員長

説明が終わりましたが、何かご発言があればお願いをいたします。

どうぞ。

中川委員

学習指導要領が新しくなりますね。その中に、小学校で英語という科目がありますけれど、さっきの小学校用図書の中にはその英語は入っていないんですけど、これはどのように。

指導課長

はい。正確に申し上げますと、英語は、マスメディアでは英語教育が小学校で始まるような表現・表記が多いんですけども、正確に申し上げますと、

外国語活動です。ですから、教科という位置づけではありませんで、今まで総合的な学習の時間の中で、本区などは英語活動を先行的に取り入れてきています。それが今度は学習指導要領の中にも位置づけられて、教科ではないんですけれども、また、総合の中から取り出して、重点化したというんでしょうか、それで外国語活動という名前、名称が出てきています。

それで、教材ですけれども、せんだっての仕分け等でも話題になっております英語ノート、これが今まで教材の一つとして使われています。来年度については確保できているようですが、それ以降については不安定な状況がありますので、これは今後検討していかなきゃいけないとは思っています。

あわせて、ALTと呼んでおりますが、外国人の英語指導の補助員を、区で予算措置をして配置しておるんですけれども、民間企業を通してALTの派遣になっていますが、その委託契約の中で、教材についても開発して、教員の意見を取り入れながらテキストをつくっていくという形になっておまして、いわゆる教科書はないんですけれども、英語ノートと、その委託先の業者が開発している教材とを併用していくような形で今進んでおります。

市川委員長

よろしゅうございますか。

どうぞ。

古川委員

ちなみに、その英語の活動は、成績表に項目として出てくるようなものですか。どうなんでしょうか。

指導課長

はい。いわゆる成績はつきません。指導要録といいまして通知表のもとになるものがあるんですが、今回、学習指導要領が変わりますので、要録の様式も変更になります。そして、そこに外国語活動という項目が設けられます。今の観点別、ABCのような評価とはまた別の形になるかと思います。総合的な学習のような記載、記述の評価になると思いますけれども、いわゆる成績をつけるというようなイメージではありません。

市川委員長

よろしゅうございますか。

古川委員

はい。それから、学童クラブの待機児童なんですけれども、7時以降の延長で、要望は多いんでしょうか。

児童・家庭支援センター所長

次世代育成行動計画のアンケート調査でも、日曜日に開館してほしいとか、児童館の延長というようなアンケートの回答が出てきておりますので、そういう意味で、7時以降の延長について検討せよということになっております。

実際、7時以降までやって、家庭のかかわりをどうするのかというのは、また別の問題であるんだろうなとは思いますが、いつまでも児童館で置いておくというのは、果たして良いのかどうかというのはあるかと思えますね。

古川委員

要望が少し上がってきているので、試験的にというような段階ですか。7時以降の学童クラブの延長を試験的にやっていくというのは、緊急で保護者が困っているような状況ではない。試験的にというようなのが今の段階ですか。

児童・家庭支援センター所長

放課後の健全育成、児童の健全育成という観点で、もう少しトータルに考えたほうがいいのかなというふうに思いますので、すぐ案は出さずに、慎重に検討していきたいなというふうに思っています。

市川委員長

よろしいですか。

古川委員

はい。

市川委員長

ほかにいかがですか。

中川委員

この8番の自然体験・社会体験の充実と心の教育の推進というところなんですけど、その取り組みを見ていますと、ちょっとその区分けみたいなのが不明確で、自然体験はどういうふうに取り組まれるのか、わかりづらいのですが。

指導課長

自然体験を通して、集団宿泊的な行事を通して人間関係、人とのかかわりをつくっていく、コミュニケーションスキルを高めていくというストーリーの中で、自然体験・社会体験とそれから心の教育の推進という項目が混在する表現に今回なっています。そこで、新規事業として、フレンドシップサポート、これはコミュニケーションの力、ストレス・マネジメントの力を子どもたちにつけようということで、中学校で試行的に実施しますが、今回の平成22年度の目玉の1つにはなっておりまして、それを強調した書き方になっております。

直接のお尋ねの自然体験については、本区の場合、小学校4年生が岩井の臨海から始まって、嬬恋に行ったり、それから、中学生になると軽井沢に行ったり、スキーで嬬恋に出かけたりということで、春・夏・冬そして海山ということで、バリエーションは十分確保できていると思っています。

ただ、昨年度も市川委員長からご指摘いただいた嬬恋の5年生の農業体験ですが、以前は春と秋、2泊3日を2回実施していました。作付けと収穫と。一番苦勞するところはあちらにやっていただくんで、良いところ取りではあるんですが、その間、現地との交流などをしながら、高めていったところなんです。しかし、授業時数も確保しなければならないということで、秋、3泊4日に延ばして1回に、昨年度から切りかえています。

委員長から、それは充実じゃないんじゃないかという厳しいご指摘をいただいておりますけども、昨年度は計画変更の1回目だったんですが、新型インフルエンザの関係で、全校が実施できずにおりました。1年間だけで変えるということは、先方との関係もありますので難しいということで、今年は昨年度並みでやらせていただいておりますが、昨年度の反省、それから今年、全校実施したときの様子も含めて、現地とはやりとりをさせていただいて、もし復活するとなったら嬬恋はできますかという打診をしたところ、プラスのお返事をいただいておりますので、ここは今後また調整していきたいと思っております。

市川委員長

いや、私が言ったのは、収穫だけやって良いのかというようなこともあったんですね。

ほかに。よろしゅうございますか。

(了 承)

指導課（２）事故報告 【個人情報につき、非公開】

市川委員長

それでは、以上をもちまして本日は終了したいと思います。
どうもご苦労さまでした。